

東濃地域医療を守る

連絡会ニュース No.3

懇談会はじまる

二月二十日午後三時から中津川市の病院事業部と懇談しました。参加者は病院側が、西尾部長さん他二名、連絡会からは5名参加。

二つの病院の現状について、次のように話されました。

市民病院

総床360床

この内、休床 87床 一般病床、233床

地域包括40床

県から休床の解消を攻められている

坂下病院

総床199床

この内休床 35床、一般110床

療養病床50床、しかし、現在は療養病床のみ19床、しかも入院できるのは、介護施設からの紹介患者さんのみ。現在は入院患者ゼロ

坂下病院が縮小せざるを得なかった理由について

西尾部長さんの個人の意見として、医師不足が第一

だが、40億円の負債、土地が借地で建物が大きすぎるなどをあげました。しかし、病院の廃止はできない、せめて内科の外来診療は何としても残したいと話されました。

しかし、この案は2017年に出された「中津川新公立病院改革プラン」の中で、「中津川市公立病院検討委員会」が提案しているシナリオ2と同じです

シナリオ2

財政負担の軽減を考慮しつつも、中津川市の医療介護状況を考慮

市民病院↓従来の急性期医療に加え、回復期医療の機能強化

坂下病院↓坂下病院を閉鎖、医療内包型老人施設の設置

*外来機能：坂下病院に内科外来診療と透析部門を残し、それ以外は市民病院に集約

*入院機能：坂下病院を閉鎖。市民病院に集約

*市民病院に地域包括ケア病床を増床

*坂下病院にさかした老人保健施設を移設

*療養病床の閉鎖、療養患者については国の方向性に従い、在宅医療、介護施設、老人保健施設の対応を想定

シナリオは4つあって、坂下病院を閉鎖しないシナリオも2つあります。

坂下の住民の総意としてシナリオ2に決定したのか、今の惨状をみてもシナ



リオ2を容認するでしょうか。

各市の住民組織の行動

★多治見の地域医療の拡充を求める会

二月二十二日 学習会、三〇人参加

「求める会」の要望で市議会が国と県に意見書をだしたとの報告に満場拍手。また、講師から、東濃医療圏は医師不足が深刻なのに、県は何の手も打っていないということが話され、会場に怒りの声があがった

役員体制が報告され満場の拍手で承認されました。

★東濃厚生病院を残すことを求める会

二月二十二日発足、会の名称と今後の行動を決定、参加者一〇人

二月二十八日 九時 瑞浪市長と懇談

会場瑞浪市役所

県との懇談

三月二十四日（火）午後一時で調整中

全ての組織から、複数参加を

お願いします